

平成29年度埼玉県・クイーンズランド州高校生短期留学プログラム  
奨学生レポート

赤堀杏佳

8月4日～19日の2週間、オーストラリア・クイーンズランド州に滞在した中で、印象に残ったことを「気候・自然・街並み」「日本語の授業」「日本文化の紹介」という3つの項目に分けて紹介します。

**「気候・自然・街並み」**

8月は冬であるにもかかわらず、日中は30度近くまで気温が上がりました。ホストシスターが去年は寒かったといていたので、今年は異常だったようです。天候はとても穏やかで、滞在した2週間はすべて晴れていました。空は日本よりもずっと真っ青で、夜はプラネタリウムのように星がきれいに見えました。緑も豊かで、休日に連れて行ってもらったグラス・ハウス・マウンテンズでは珍しい形の火山が多くみられました。

広大な土地が広がるクイーンズランド州では、ほとんどの建物が平屋になっています。私が訪れたサンシャインコースト大学でも最高で3階建てでした。日本の大学は20階建て以上も珍しくないことを伝えると、とても驚かれました。



## 「日本語の授業」

高校の日本語の授業では、道案内をテーマに、建物の名前や方向などの単語を覚えた後にタブレットを用いて道案内のビデオを作っていました。「は」「に」「へ」などの助詞を正しく使い分けるのが難しいようで、たくさん質問を受けました。授業の雰囲気は日本と比べるとかなりのびのびとしていて、言語と親しむことを目的とした日本の小学校の英語の授業を発展させたようなイメージです。

私のホストシスターは、高校の授業に加えて大学の日本語の授業を取っていました。日本でいう「高大連携プログラム」のようなもので、学校で何人か参加しているようです。私が訪問したときは形容詞を学んでいました。基本形、過去形、否定形、過去否定形の作り方など、私たちが普段意識していない部分を改めて英語で教わるのは新鮮で面白かったです。

また、同時に意識していない部分を人に英語で説明することの難しさも感じました。



高校の日本語のクラス



サンシャインコースト大学

## 「日本文化の紹介」

たくさん持って行った日本のお土産のなかで人気だったのは「けん玉」でした。出発前に練習してホストファミリーの前で披露したことで、遊び方が単純だったのがよかったようです。

逆に最も不人気だったのは「白玉」です。日本から白玉粉とあんこときな粉を持っていき、デザートとして作ったのですが、8人中3人にしか食べてもらえませんでした。きな粉に関しては、3人とも一口だけ食べて終わってしまったので残りを食べるのが大変でした。あらかじめ作るのを練習していったので、とても残念でした。

ホストファミリーはドラえもんやワンピース、NARUTO など、世界で人気の漫画やアニメを知りませんでした。私は日本のアニメや漫画は世界中誰でも通用するものだと思っていたので、知らない人もいるという当たり前のことに気づかされました。

滞在3日目は広島原爆投下の日だったので、原爆ドームを紹介し、8月6日が日本人にとって特別な日であることを伝えました。ホストファミリー全員が真剣に聞いてくれた上、たくさん質問をしてくれました。決して軽い話ではないので話すか迷いましたが、ホストファザーに「大切なことを伝えてくれてありがとう」と言われたときは話してよかったと思いました。



けん玉をするホストブラザー



積極的に白玉にチャレンジしてくれた  
ホストシスター

## 「終わりに」

2週間という短い時間でしたが、たくさんのことを学ぶことができました。最後になりますが、今回このような貴重な機会をいただき本当にありがとうございました。